ＰＩ－１３００
ＰＬＣ接続マニュアル

<目次>

１．通信を始めるまでの手順

ここではＰＩ－１３００とＰＬＣを通信するまでのこのマニュアルでの確認内容を説明します。

ステップ	内容
ステップ１	**接続前の確認** 使用するＰＬＣのメーカ、ＣＰＵユニット、接続方法を確認して下さい。
ステップ２	**システム構成、結線** 使用するＰＬＣのシステム構成、ＰＬＣとＰＩ－１３００を接続するケーブルの結線図を確認して下さい。
ステップ３	**ユニット設定** 使用条件に合わせて、ＰＬＣ側のユニットを設定します。 設定後はＰＬＣをリセット、または電源を入れ直して下さい。
ステップ４	**ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定** 使用条件に合わせて、ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ側を設定します。 設定後はＰＩ－１３００の電源を入れ直して下さい。
ステップ５	**ＰＩ－１３００　スイッチ設定** 使用条件に合わせて、ＰＩ－１３００のスイッチを設定します。 設定後はＰＩ－１３００の電源を入れ直して下さい。
ステップ６	**接続確認** ＰＬＣのデバイスをモニタする機能で接続状態を確認します。

２．三菱電機（株）製ＰＬＣとの接続

２－１．接続前の確認

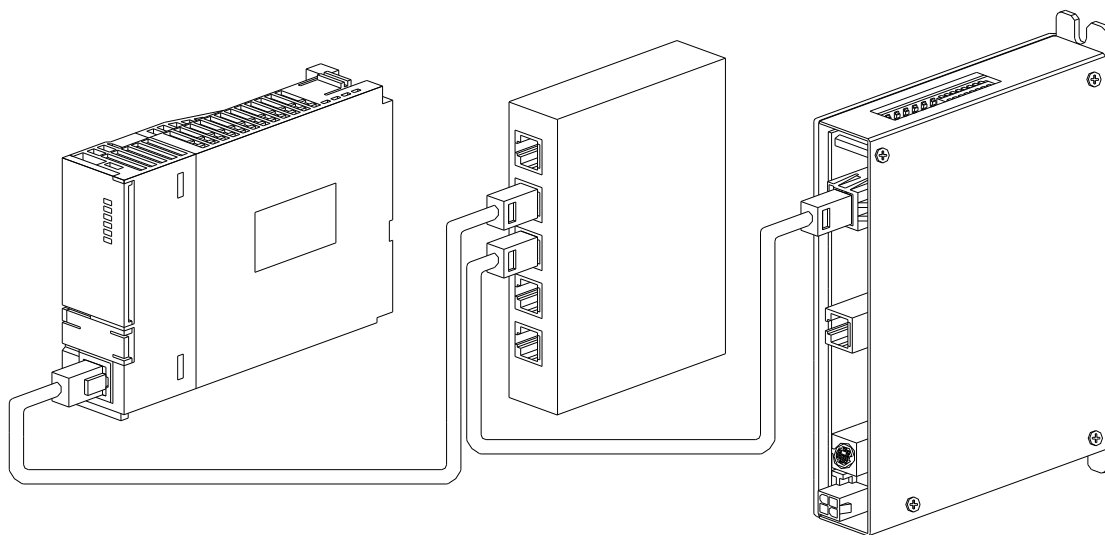
ここではＰＩ－１３００と三菱電機㈱製ＰＬＣを接続するために必要な項目を確認します。
ご使用のＰＬＣのＣＰＵユニット型式と、イーサネットユニットの型式をご確認下さい。

シリーズ名	ＣＰＵユニット	接続方法
ＭＥＬＳＥＣ－Ｑ	Ｑ０３ＵＤＥＣＰＵ	イーサネット
	Ｑ０４ＵＤＥＨＣＰＵ	
	Ｑ０６ＵＤＥＨＣＰＵ	
	Ｑ１０ＵＤＥＨＣＰＵ	
	Ｑ１３ＵＤＥＨＣＰＵ	
	Ｑ２０ＵＤＥＨＣＰＵ	
	Ｑ２６ＵＤＥＨＣＰＵ	
	Ｑ５０ＵＤＥＨＣＰＵ	
	Ｑ１００ＵＤＥＨＣＰＵ	
ＭＥＬＳＥＣ－Ｑ	Ｑ００ＪＣＰＵ	イーサネットユニット経由 ＱＪ７1Ｅ７１－１００
	Ｑ００ＣＰＵ	
	Ｑ０１ＣＰＵ	
	Ｑ０２ＣＰＵ	
	Ｑ０２ＨＣＰＵ	
	Ｑ０６ＨＣＰＵ	
	Ｑ１２ＨＣＰＵ	
	Ｑ２５ＨＣＰＵ	
	Ｑ００ＵＪＣＰＵ	
	Ｑ００ＵＣＰＵ	
	Ｑ０１ＵＣＰＵ	
	Ｑ０２ＵＣＰＵ	
	Ｑ０３ＵＤＣＰＵ	
	Ｑ０４ＵＤＨＣＰＵ	
	Ｑ０６ＵＤＨＣＰＵ	
	Ｑ１０ＵＤＨＣＰＵ	
	Ｑ１３ＵＤＨＣＰＵ	
	Ｑ２０ＵＤＨＣＰＵ	
	Ｑ２６ＵＤＨＣＰＵ	
ＭＥＬＳＥＣ－Ｌ	Ｌ０２ＣＰＵ	イーサネット
	Ｌ２６ＣＰＵ－ＢＴ	

２－２．システム構成、結線

ここではＰＩ－１３００と三菱電機㈱製ＰＬＣを接続するためのシステム構成を説明します。

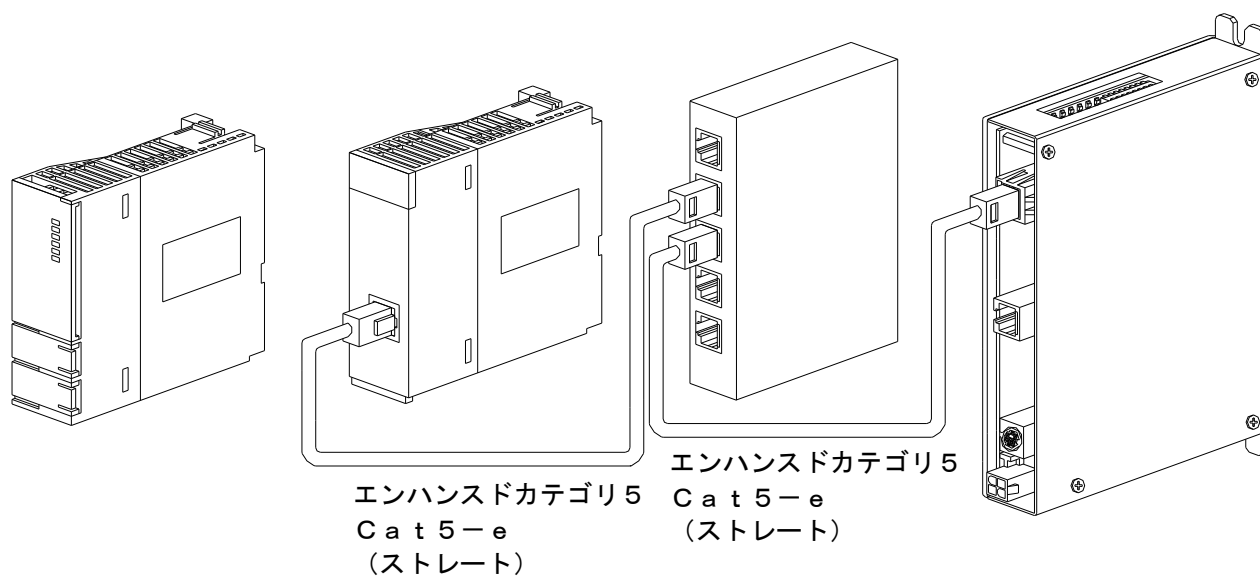
■ＭＥＬＳＥＣ－Ｑ、ＭＥＬＳＥＣ－Ｌシリーズ

<イーサネット使用時のシステム構成>

イーサネットハブとＰＩ－１３００のＣＮ１（モジュラーコネクタ）とを接続して下さい。

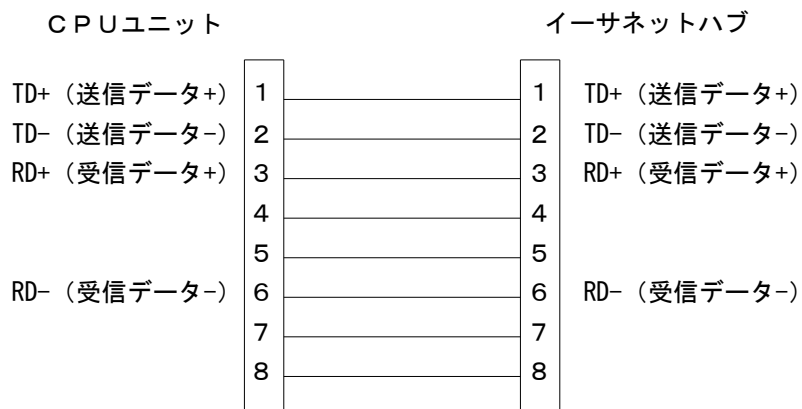
※イーサネットハブを使用せずＣＰＵユニットとＰＩ-１３００を直結する場合は
クロスケーブルを使用してください。

■ＭＥＬＳＥＣ－Ｑシリーズ

<イーサネットユニット使用時のシステム構成>

イーサネットユニットのモジュラーコネクタとイーサネットハブとを接続して下さい。
イーサネットハブとＰＩ－１３００のＣＮ１（モジュラーコネクタ）とを接続して下さい。

ＣＰＵユニット ＋ イーサネットユニット　　イーサネットハブ　　ＰＩ－１３００

※イーサネットハブを使用せずイーサネットユニットとＰＩ-１３００を直結する場合は
クロスケーブルを使用してください。

<エンハンスドカテゴリ５（ＴＩＡ／ＥＩＡ５６８－Ａ）ストレート結線図>

２－３．ユニット設定

ここではユニットの設定方法を説明します。

■ＭＥＬＳＥＣ－Ｑ、ＭＥＬＳＥＣ－Ｌシリーズ

＜イーサネット使用＞
通信条件はＧＸ－Ｄｅｖｅｌｏｐｅｒで設定します。

①ユニットネットワーク設定
「パラメータ」～「ＰＣパラメータ」の「内蔵Ｅｔｈｅｒｎｅｔポート設定」で次のように設定します。

項目	設定値
ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定（※１）
サブネットマスクパターン	ネットワークのサブネットマスクを設定（※２）
デフォルトルータＩＰアドレス	必要に応じてデフォルトルータＩＰアドレスを設定（※３）
交信データコード設定	バイナリコード交信
ＲＵＮ中書込みを許可する	許可する
ＭＥＬＳＯＦＴとの直結接続を禁止する	必要に応じて設定（※４）
ネットワーク上のＥｔｈｅｒｎｅｔ内蔵形ＣＰＵ検索に応答しない	必要に応じて設定（※４）

※１　ＩＰアドレスは、２－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。
※２　サブネットマスクパターンは、２－４項　ＰＩ　ＡｓｓｉｓｔａｎｃｅによるＰＩ設定にて設定するサブネットマスクと同じ値にして下さい。
※３　ルータを使用しない場合には設定する必要はありません。
※４　ＰＩ－１３００では使用しません。使用環境の必要に応じて設定してください。

※設定後はＰＬＣをリセット、または電源を入れ直して下さい。

②オープン設定
「パラメータ」～「ＰＣパラメータ」の「内蔵Ｅｔｈｅｒｎｅｔポート設定」～「オープン設定」で次のように設定します。

項目	設定値
プロトコル	ＵＤＰ
オープン方式	ＭＣプロトコル
自局ポート番号	任意（※１）

※１　自局ポート番号は、２－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するポート番号と同じ番号に設定して下さい。
なお、ＧＸ－Ｄｅｖｅｌｏｐｅｒでは１６進数表記、ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅでは１０進数表記になります。
自局ポート番号は、他のＭＣプロトコルの自局ポート番号と重複しない様に設定して下さい。

■ＭＥＬＳＥＣーＱシリーズ

<イーサネットユニット使用>

通信条件はＧＸ－Ｄｅｖｅｌｏｐｅｒで設定します。

①ユニット設定

「パラメータ」～「ＰＣパラメータ」の「Ｉ／Ｏ割付設定」で次のように設定します。

項目	設定値
種別	インテリ
形名	使用するイーサネットユニット形名
点数	３２点
先頭ＸＹ	対象ユニットの先頭入出力信号（１６進数）を設定

②ユニットネットワーク設定

「パラメータ」～「ネットワークパラメータ」の「Ｅｔｈｅｒｎｅｔ／ＣＣ　ＩＥ／ＭＥＬＳＥＣＮＥＴ」で次のように設定します。

項目	設定値
ネットワーク種別	Ｅｔｈｅｒｎｅｔ
先頭Ｉ／Ｏ　Ｎｏ．	対象ユニットの先頭入出力信号（１６進数）を設定（※１）
ネットワークＮｏ．	ユニットのネットワークＮｏ．を設定（※２）
グループＮｏ．	ユニットのグループＮｏ．を設定
局番	任意（※３）
モード	オンライン

※１　先頭Ｉ／Ｏ　Ｎｏ．は、ユニット設定にて設定する「先頭ＸＹ」と同じ値に設定して下さい。

※２　ネットワークＮｏは、２－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するネットワーク番号と同じ値に設定して下さい。

※３　局番は、２－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するＰＣ番号と同じ値に設定して下さい。

「パラメータ」～「ネットワークパラメータ」～「Ｅｔｈｅｒｎｅｔ／ＣＣ　ＩＥ／ＭＥＬＳＥＣＮＥＴ」の「動作設定」で次のように設定します。

項目	設定値
交信データコード設定	バイナリコード交信
イニシャルタイミング設定	常にＯＰＥＮ待ち
ＩＰアドレス設定	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定（※１）
送信フレーム設定	Ｅｔｈｅｒｎｅｔ（Ｖ２．０）
ＴＣＰ生存確認設定	必要に応じて設定（※２）
ＲＵＮ中書込を許可する	許可

※１　ＩＰアドレスは、２－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。

※２　ＰＩ－１３００では使用しません。使用環境の必要に応じて設定してください。

「パラメータ」～「ネットワークパラメータ」～「Ｅｔｈｅｒｎｅｔ／ＣＣ　ＩＥ／MELSECNET」の「オープン設定」で次のように設定します。

項目	設定値
プロトコル	ＵＤＰ
固定バッファ	送信
固定バッファ交信手順	手順あり
ペアリングオープン	ペアにしない
生存確認	確認しない
自局ポート番号	任意（※１）
交信相手ＩＰアドレス	ＰＩ－１３００に割り当てるＩＰアドレスを設定（※２）
交信相手ポート番号	任意（※１）

※１　自局ポート番号と交信相手ポート番号は、２－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するポート番号と同じ番号に設定して下さい。
なお、ＧＸ－Ｄｅｖｅｌｏｐｅｒでは１６進数表記、ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅでは１０進数表記になります。
自局ポート番号は、他のＭＣプロトコルの自局ポート番号と重複しない様に設定して下さい。
※２　交信相手ＩＰアドレスは、２－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる ＰＩ設定にて設定するＩＰアドレスと同じＩＰアドレスを設定して下さい。

※　設定後はＰＬＣをリセット、または電源を入れ直して下さい。

２－４．ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定

ここではＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅの設定方法を説明します。

■ＭＥＬＳＥＣ－Ｑ、ＭＥＬＳＥＣ－Ｌシリーズ

＜イーサネット、イーサネットユニット使用＞

①「プロジェクト」～「ＰＩ設定」で次のように設定します。

イーサネット設定

項目	設定値
ＩＰアドレス	ＰＩ－１３００に割り当てるＩＰアドレスを設定
サブネットマスク	ＰＬＣのサブネットマスクパターンと同じ値を設定
デフォルトゲートウェイ	ＰＬＣのデフォルトルータＩＰアドレスと同じ設定

②「プロジェクト」～「ＰＬＣ間通信設定」で次のように設定します。
なお、ＰＩ－１３００と共有するデバイスはデータレジスタのみです。
デバイス値は数値だけを入力して下さい。（デバイス記号Ｄは入力不要です）

使用するＰＬＣ

項目	設定値
接続ＰＬＣ	三菱（Ｑシリーズ）

ＰＬＣとの接続

項目	設定値
接続方法	イーサネット（ＰＩ－１３００）

デバイスアドレス

項目	設定値
指令領域先頭（ＰＬＣ→ＰＩ）	データレジスタの任意のデバイス値（※１）
応答領域先頭（ＰＩ→ＰＬＣ）	データレジスタの任意のデバイス値（※１）
ポイントデータ領域先頭（ＰＬＣ→ＰＩ）	データレジスタの任意のデバイス値（※２）

接続先設定（※３）

項目	設定値
接続先ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定
ポート番号	ＰＬＣに割り当てるポート番号を設定
ネットワーク番号	任意の値を設定（※４）
ＰＣ番号	任意の値を設定（※５）
要求ユニットＩ／Ｏ番号	任意の値を設定
要求ユニット局	任意の値を設定
ＰＬＣ内タイムアウト時間	任意の値を設定

※１　設定したデバイス値から占有するデバイス数は２００となります。
他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。
※２　設定したデバイス値から占有するデバイス数は７６８となります。
他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。
※３　「接続先設定」の設定値は、ＰＬＣのユニット設定で設定した値と
同じ値を設定して下さい。
また他の機器に設定した値と重複しないように設定して下さい。
※４　イーサネットユニットを使用する場合、ネットワーク番号は２－３項　ユニット設定
ユニットネットワーク設定のネットワークＮｏ．と同じ値に設定して下さい。
※５　イーサネットユニットを使用する場合、ＰＣ番号は２－３項　ユニット設定
ユニットネットワーク設定の局番と同じ値に設定して下さい。

③「オンライン」～「ＰＩ書き込み」で設定の書き込みを実行します。
設定後はＰＩ－１３００の電源を入れ直して下さい。

２－５．ＰＩ－１３００　スイッチ設定

ここではＰＩ－１３００のスイッチ（ＳＷ１）設定方法を説明します。

①通信機能の設定
ＳＷ１のｂｉｔ１～３は全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。
ＳＷ１のｂｉｔ４はＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度設定です。
使用するＡＥ－ＬＩＮＫスレーブ機器に応じて、通信速度を設定して下さい。
ＳＷ１のｂｉｔ５～８は予備のスイッチなので全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。

ｂｉｔ１～８機能

スイッチ番号	機能	ＯＦＦ	ＯＮ
ｂｉｔ１	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ２	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ３	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ４	ＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度	３８．４ｋｂｐｓ	３０７．２ｋｂｐｓ
ｂｉｔ５	予備	－	－
ｂｉｔ６	予備	－	－
ｂｉｔ７	予備	－	－
ｂｉｔ８	予備	－	－

※スイッチの設定は、コントローラの電源を切った状態で行って下さい。
スイッチの設定は、絶縁されたマイナスドライバ等を使用して下さい。

２－６．接続確認

設定が完了した後は、接続状態の確認を行って下さい。

接続状態の確認はＧＸ－Ｄｅｖｅｌｏｐｅｒで行います。
「オンライン」～「モニタ」～「デバイス一括」でデバイス一括モニタを表示させます。
「デバイス」にＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定で応答領域先頭に設定したデバイスアドレスを入力します。
応答領域先頭デバイスのｂｉｔ８～ｂｉｔ１５（Ｆ）にはＰＩ－１３００のWＤＴ（ウォッチドッグタイマ）が反映されています。
ｂｉｔ８～１５が１秒ごとに１つずつ変化していれば接続状態は正常です。
ｂｉｔ８～１５のデータが変化しない場合には正常な通信が行われていない可能性があるので、もう一度各設定内容を確認して下さい。

３．（株）キーエンス製ＰＬＣとの接続

３－１．接続前の確認

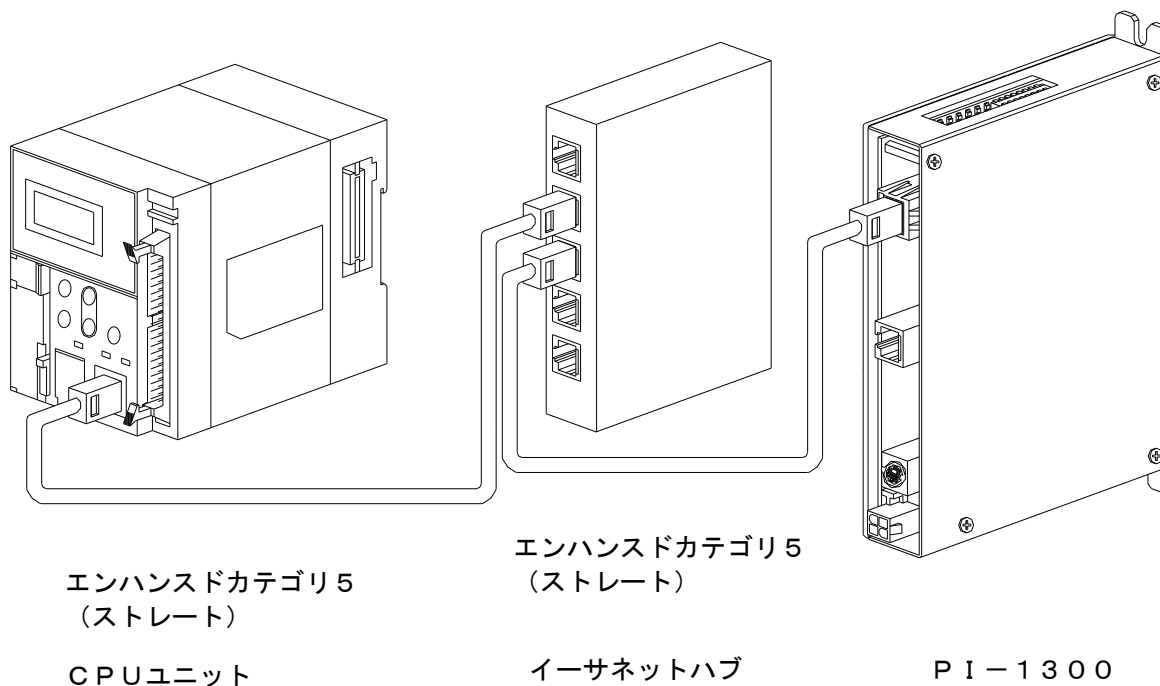
ここではＰＩ－１３００と㈱キーエンス製ＰＬＣを接続するために必要な項目を確認します。
ご使用のＰＬＣのＣＰＵユニット型式と、イーサネットユニットの型式をご確認下さい。

シリーズ名	ＣＰＵユニット	接続方法
ＫＶ	ＫＶ－５０００	イーサネット
	ＫＶ－５５００	
ＫＶ	ＫＶ－７００	イーサネットユニット経由 ＫＶ－ＬＥ２０Ｖ ＫＶ－ＬＥ２１Ｖ
	ＫＶ－１０００	
	ＫＶ－３０００	

３－２．システム構成、結線

ここではＰＩ－１３００と㈱キーエンス製ＰＬＣを接続するためのシステム構成を説明します。

■ＫＶシリーズ

<イーサネット使用時のシステム構成>

イーサネットハブとＰＩ－１３００のＣＮ１（モジュラーコネクタ）とを接続して下さい

エンハンスドカテゴリ５
（ストレート）

エンハンスドカテゴリ５
（ストレート）

ＣＰＵユニット　　イーサネットハブ　　ＰＩ－１３００

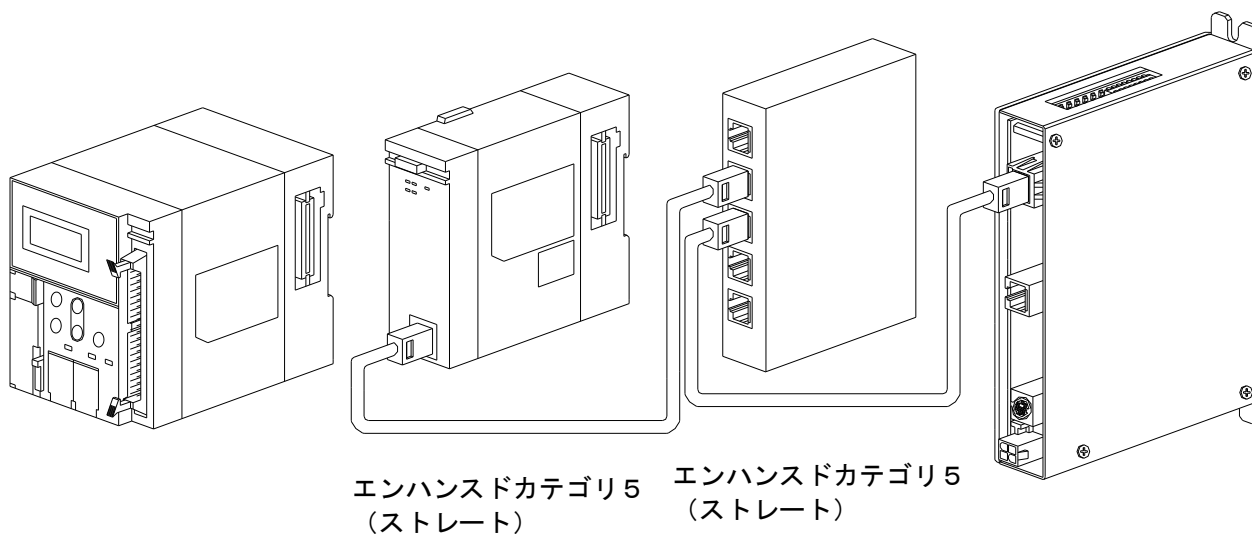
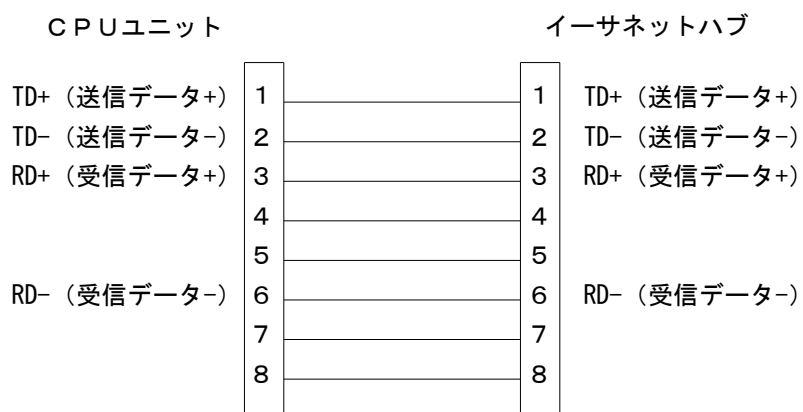
※イーサネットハブを使用せずＣＰＵユニットとＰＩ-１３００を直結する場合は
　クロスケーブルを使用してください。

＜イーサネットユニット使用時のシステム構成＞

イーサネットユニットのモジュラーコネクタとイーサネットハブとを接続して下さい。
イーサネットハブとＰＩ－１３００のＣＮ１（モジュラーコネクタ）とを接続して下さい。

ＣＰＵユニット　＋　イーサネットユニット　　イーサネットハブ　　ＰＩ－１３００

※イーサネットハブを使用せずイーサネットユニットとＰＩ-１３００を直結する場合は
　クロスケーブルを使用してください。

＜エンハンスドカテゴリ５（ＴＩＡ／ＥＩＡ５６８－Ａ）ストレート結線図＞

３－３．ユニット設定

ここではユニットの設定方法を説明します。

■ＫＶシリーズ

＜イーサネット使用＞
通信条件はＫＶ－ＳＴＵＤＩＯで設定します。

①使用ユニット選択
「ツール」～「ユニットエディタ」の「ユニット選択（１）」で使用するＣＰＵユニットを選択してユニット構成に追加します。

②ユニットスイッチ設定
「ツール」～「ユニットエディタ」の「ユニット設定（２）」で次のように設定します。

機能

項目	設定値
通信モード	イーサネット
メール設定	必要に応じて設定（※５）

基本設定

項目	設定値
先頭ＤＭ番号	対象ユニットの先頭ＤＭ番号
使用ＤＭ数	占有ＤＭ数
先頭リレー番号（ｃｈ単位設定）	対象ユニットの先頭リレー番号
使用リレー点数	占有リレーｃｈ数
通信速度	１００／１０Ｍｂｐｓ自動
ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定（※１）
サブネットマスク	ネットワークのサブネットマスクを設定（※２）
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのＩＰアドレスを設定
ポート番号（ＫＶＳ，ＤＢ）	任意のポート番号（※３）
ポート番号（上位リンク）	任意のポート番号（※３）
受信タイムアウト[ｓ]	任意の値
キープアライブ[ｓ]	任意の値
ＦＴＰ有効	必要に応じて設定（※５）
パスワード	必要に応じて設定（※５）
ルーティング設定	必要に応じて設定（※５）
ポート番号（ＶＴ）	任意のポート番号（※３）
ＤＮＳサーバ	ＤＮＳサーバのＩＰアドレスを設定
ＭＣプロトコルポート番号（ＴＣＰ）	任意のポート番号（※３）
ＭＣプロトコルポート番号（ＵＤＰ）	ＰＬＣに割り当てるポート番号を設定（※４）
ＭＣプロトコル交信コード	バイナリ
自動時計調整	必要に応じて設定（※５）
ＳＮＴＰ通信タイムアウト[ｍｓ]	必要に応じて設定（※５）
時計調整時刻[ｈ]	必要に応じて設定（※５）
時計調整時刻[ｍ]	必要に応じて設定（※５）
時計調整時刻[ｓ]	必要に応じて設定（※５）
時計調整間隔[ｍ]	必要に応じて設定（※５）
ＧＭＴオフセット	必要に応じて設定（※５）
ＧＭＴオフセット[ｈ]	必要に応じて設定（※５）
ＧＭＴオフセット[ｍ]	必要に応じて設定（※５）
ＧＭＴオフセット[ｓ]	必要に応じて設定（※５）
ＮＴＰ（ＳＮＴＰ）サーバ	必要に応じて設定（※５）

※１　ＩＰアドレスは、３－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定する
ＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。
※２　サブネットマスクパターンは、３－４項　ＰＩ　ＡｓｓｉｓｔａｎｃｅによるＰＩ設定にて
設定するサブネットマスクと同じ値にして下さい。
※３　ポート番号に０～１０２３番は使用しないで下さい。
また他のポート番号と重複しないように設定して下さい。
※４　ＭＣプロトコルポート番号（ＵＤＰ）は、３－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる
接続先設定にて設定するポート番号と同じ値に設定して下さい。
また他のポート番号と重複しないように設定して下さい。
※５　ＰＩ－１３００では使用しません。使用環境の必要に応じて設定してください。

※　設定後はＰＬＣをリセット、または電源を入れ直して下さい。

＜イーサネットユニット使用＞
通信条件はＫＶ－ＳＴＵＤＩＯで設定します。

①使用ユニット選択
「ツール」～「ユニットエディタ」の「ユニット選択（１)」で使用するイーサネットユニットを選択してユニット構成に追加します。

②ユニットスイッチ設定
「ツール」～「ユニットエディタ」の「ユニット設定（２)」で次のように設定します。

基本設定（ＣＰＵユニット　ＫＶ－３０００使用)

項目	設定値
先頭ＤＭ番号	対象ユニットの先頭ＤＭ番号
使用ＤＭ数	占有ＤＭ数
先頭リレー番号（ｃｈ単位設定)	対象ユニットの先頭リレー番号
使用リレー点数	占有リレーｃｈ数
動作モード	ＫＶ－ＬＥ２０Ｖモード
通信速度	１００／１０Ｍｂｐｓ自動
ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定（※１)
サブネットマスク	ネットワークのサブネットマスクを設定（※２)
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのＩＰアドレスを設定
ポート番号（ＫＶＳ，ＤＢ)	任意のポート番号（※３)
ポート番号（上位リンク)	任意のポート番号（※３)
受信タイムアウト[ｓ]	任意の値
キープアライブ[ｓ]	任意の値
ＦＴＰ有効	必要に応じて設定（※５)
パスワード	必要に応じて設定（※５)
ルーティング設定	必要に応じて設定（※５)
ポート番号（ＶＴ)	任意のポート番号（※３)
ＤＮＳサーバ	ＤＮＳサーバのＩＰアドレスを設定
ＭＣプロトコルポート番号（ＴＣＰ)	任意のポート番号（※３)
ＭＣプロトコルポート番号（ＵＤＰ)	ＰＬＣに割り当てるポート番号を設定（※４)
ＭＣプロトコル交信コード	バイナリ
自動時計調整	必要に応じて設定（※５)
ＳＮＴＰ通信タイムアウト[ｍｓ]	必要に応じて設定（※５)
時計調整時刻[ｈ]	必要に応じて設定（※５)
時計調整時刻[ｍ]	必要に応じて設定（※５)
時計調整時刻[ｓ]	必要に応じて設定（※５)
時計調整間隔[ｍ]	必要に応じて設定（※５)
ＧＭＴオフセット	必要に応じて設定（※５)
ＧＭＴオフセット[ｈ]	必要に応じて設定（※５)
ＧＭＴオフセット[ｍ]	必要に応じて設定（※５)
ＧＭＴオフセット[ｓ]	必要に応じて設定（※５)
ＮＴＰ（ＳＮＴＰ)サーバ	必要に応じて設定（※５)

※１　ＩＰアドレスは、３－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。
※２　サブネットマスクパターンは、３－４項　ＰＩ　ＡｓｓｉｓｔａｎｃｅによるＰＩ設定にて設定するサブネットマスクと同じ値にして下さい。
※３　ポート番号に０～１０２３番、８５０３～８５０５番は使用しないで下さい。
また他のポート番号と重複しないように設定して下さい。
※４　ＭＣプロトコルポート番号（ＵＤＰ)は、３－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するポート番号と同じ値に設定して下さい。
また他のポート番号と重複しないように設定して下さい。
※５　ＰＩ－１３００では使用しません。使用環境の必要に応じて設定してください。

基本設定（ＣＰＵユニット　ＫＶ－７００、ＫＶ－１０００使用）

項目	設定値
先頭ＤＭ番号	対象ユニットの先頭ＤＭ番号
使用ＤＭ数	占有ＤＭ数
先頭リレー番号（ｃｈ単位設定）	対象ユニットの先頭リレー番号
使用リレー点数	占有リレーｃｈ数
動作モード	ＫＶ－ＬＥ２０Ａ互換モード
通信速度	１００／１０Ｍｂｐｓ自動
ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定（※１）
サブネットマスク	ネットワークのサブネットマスクを設定（※２）
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのＩＰアドレスを設定
ポート番号（ＫＶＳ，ＤＢ）	任意のポート番号（※３）
ポート番号（上位リンク）	任意のポート番号（※３）
受信タイムアウト[ｓ]	任意の値
キープアライブ[ｓ]	任意の値
ＫＶソケット	必要に応じて設定（※４）
ＦＴＰ有効	必要に応じて設定（※４）
パスワード	必要に応じて設定（※４）
ルーティング設定	必要に応じて設定（※４）
ポート番号（ＶＴ）	任意のポート番号（※３）
拡張モード	必要に応じて設定（※４）

※１　ＩＰアドレスは、３－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定する
　　　ＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。
※２　サブネットマスクパターンは、３－４項　ＰＩ　ＡｓｓｉｓｔａｎｃｅによるＰＩ設定にて
　　　設定するサブネットマスクと同じ値にして下さい。
※３　ポート番号に０～１０２３番は使用しないで下さい。
　　　また他のポート番号と重複しないように設定して下さい。
※４　ＰＩ－１３００では使用しません。使用環境の必要に応じて設定してください。

※設定後はＰＬＣをリセット、または電源を入れ直して下さい。

３－４．ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定

ここではＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅの設定方法を説明します。

■ＫＶシリーズ

＜イーサネット、イーサネットユニット使用＞

①「プロジェクト」～「ＰＩ設定」で次のように設定します。

イーサネット設定

項目	設定値
ＩＰアドレス	ＰＩ－１３００に割り当てるＩＰアドレスを設定
デフォルトゲートウェイ	任意の値を設定
ＩＰマスク	ネットワークのＩＰマスクを設定

②「プロジェクト」～「ＰＬＣ間通信設定」で次のように設定します。
なお、ＰＩ－１３００と共有するデバイスはデータレジスタのみです。
デバイス値は数値だけを入力して下さい。（デバイス記号Ｄは入力不要です）

使用するＰＬＣ

項目	設定値
接続ＰＬＣ	キーエンス（ＫＶシリーズ）

ＰＬＣとの接続

項目	設定値
接続方法	イーサネット（ＰＩ－１３００）

デバイスアドレス

項目	設定値
指令領域先頭（ＰＬＣ→ＰＩ）	任意のデバイス値（※１）
応答領域先頭（ＰＩ→ＰＬＣ）	任意のデバイス値（※１）
ポイントデータ領域先頭（ＰＬＣ→ＰＩ）	任意のデバイス値（※２）

接続先設定（※３）

項目	設定値
接続先ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定
ポート番号	ＰＬＣに割り当てるポート番号を設定
ネットワーク番号	任意の値を設定
ＰＣ番号	任意の値を設定
要求ユニットＩ／Ｏ番号	任意の値を設定
要求ユニット局	任意の値を設定
ＰＬＣ内タイムアウト時間	任意の値を設定

※１　設定したデバイス値から占有するデバイス数は２００となります。
　　　他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
　　　ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。
※２　設定したデバイス値から占有するデバイス数は７６８となります。
　　　他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
　　　ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。
※３　「接続先設定」の設定値は、ＰＬＣのユニット設定で設定した値と
　　　同じ値を設定して下さい。
　　　また他の機器に設定した値と重複しないように設定して下さい。

③「オンライン」～「ＰＩ書き込み」で設定の書き込みを実行します。
設定後はＰＩ－１３００の電源を入れ直して下さい。

３－５．ＰＩ－１３００　スイッチ設定

ここではＰＩ－１３００のスイッチ（ＳＷ１）設定方法を説明します。

①通信機能の設定
ＳＷ１のｂｉｔ１～３は全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。
ＳＷ１のｂｉｔ４はＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度設定です。
使用するＡＥ－ＬＩＮＫスレーブ機器に応じて、通信速度を設定して下さい。
ＳＷ１のｂｉｔ５～８は予備のスイッチなので全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。

ｂｉｔ１～８機能

スイッチ番号	機能	ＯＦＦ	ＯＮ
ｂｉｔ１	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ２	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ３	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ４	ＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度	３８．４ｋｂｐｓ	３０７．２ｋｂｐｓ
ｂｉｔ５	予備	－	－
ｂｉｔ６	予備	－	－
ｂｉｔ７	予備	－	－
ｂｉｔ８	予備	－	－

※スイッチの設定は、コントローラの電源を切った状態で行って下さい。
　スイッチの設定は、絶縁されたマイナスドライバ等を使用して下さい。

３－６．接続確認

設定が完了した後は、接続状態の確認を行って下さい。

接続状態の確認はＫＶ－ＳＴＵＤＩＯで行います。
「モニタ／シミュレータ」の「一括モニタウィンドウ」で一括モニタを表示させます。
「デバイス」にＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定で応答領域先頭に設定したデバイスアドレスを入力します。
応答領域先頭デバイスのｂｉｔ８～ｂｉｔ１５（Ｆ）にはＰＩ－１３００のWDＴ（ウォッチドッグタイマ）が反映されています。
ｂｉｔ８～１５が１秒ごとに１つずつ変化していれば接続状態は正常です。
ｂｉｔ８～１５のデータが変化しない場合には正常な通信が行われていない可能性があるので、もう一度各設定内容を確認して下さい。

４．オムロン（株）製ＰＬＣとの接続

４－１．接続前の確認

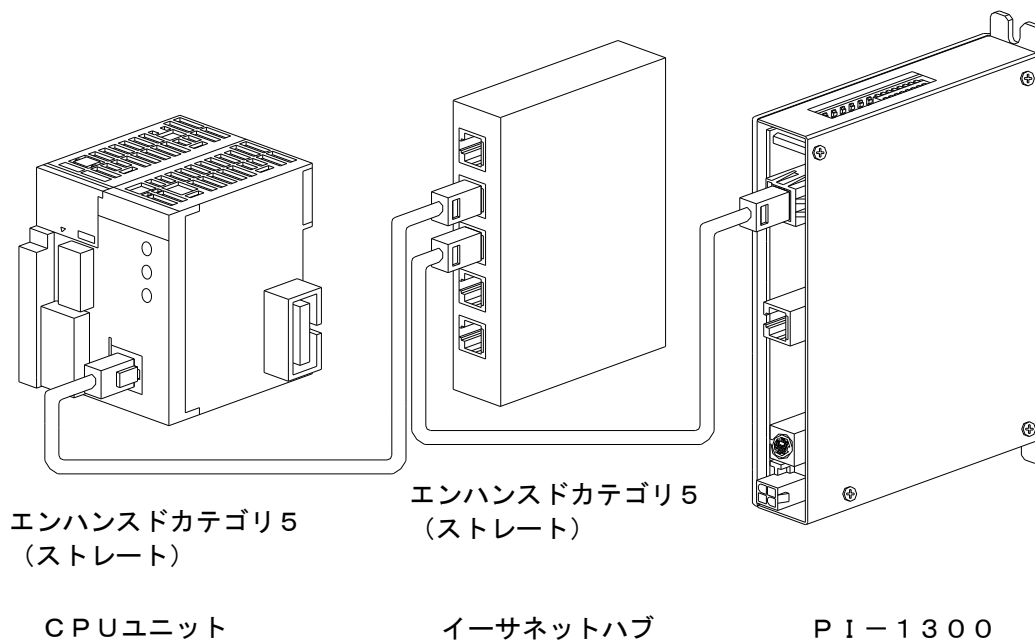
ここではＰＩ－１３００とオムロン㈱製ＰＬＣを接続するために必要な項目を確認します。
ご使用のＰＬＣのＣＰＵユニット型式と、イーサネットユニットの型式をご確認下さい。

<table>
<tr><th>シリーズ名</th><th>ＣＰＵユニット</th><th>接続方法</th></tr>
<tr><td rowspan="19">ＣＪ</td><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ１１－ＥＴＮ</td><td rowspan="3">イーサネット</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ１２－ＥＴＮ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ１３－ＥＴＮ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｈ－ＣＰＵ６４Ｈ－Ｒ</td><td rowspan="16">イーサネットユニット経由
ＣＪ１Ｗ－ＥＴＮ２１</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｈ－ＣＰＵ６５Ｈ－Ｒ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｈ－ＣＰＵ６６Ｈ－Ｒ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｈ－ＣＰＵ６７Ｈ－Ｒ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｈ－ＣＰＵ６５Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｈ－ＣＰＵ６６Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｈ－ＣＰＵ６７Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｇ－ＣＰＵ４２Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｇ－ＣＰＵ４３Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｇ－ＣＰＵ４４Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ１１</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ１２</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ１３</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ２１</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ２２</td></tr>
<tr><td>ＣＪ１Ｍ－ＣＰＵ２３</td></tr>
<tr><td rowspan="17">ＣＳ</td><td>ＣＳ１Ｈ－ＣＰＵ６３Ｈ</td><td rowspan="17">イーサネットユニット経由
ＣＳ１Ｗ－ＥＴＮ２１
ＣＳ１Ｗ－ＥＴＮ２１Ｄ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｈ－ＣＰＵ６４Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｈ－ＣＰＵ６５Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｈ－ＣＰＵ６６Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｈ－ＣＰＵ６７Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｇ－ＣＰＵ４２Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｇ－ＣＰＵ４３Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｇ－ＣＰＵ４４Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｇ－ＣＰＵ４５Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ６５Ｐ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ６７Ｐ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ６５Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ６７Ｈ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ４２Ｓ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ４４Ｓ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ６５Ｓ</td></tr>
<tr><td>ＣＳ１Ｄ－ＣＰＵ６７Ｓ</td></tr>
</table>

４－２．システム構成、結線

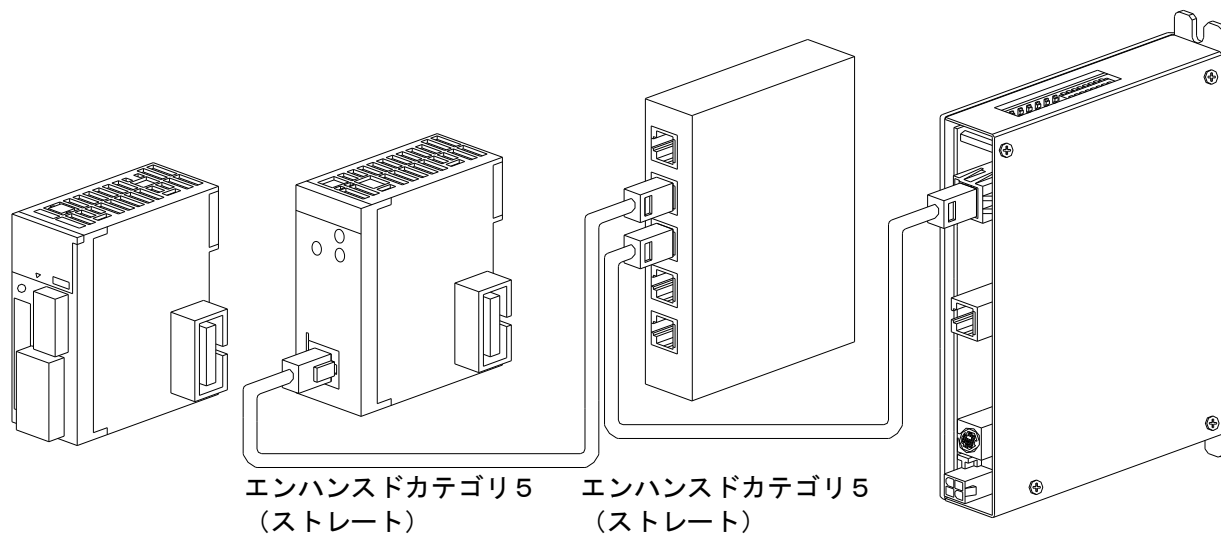
ここではＰＩ－１３００とオムロン㈱製ＰＬＣを接続するためのシステム構成を説明します。

■ＣＪ／ＣＳシリーズ

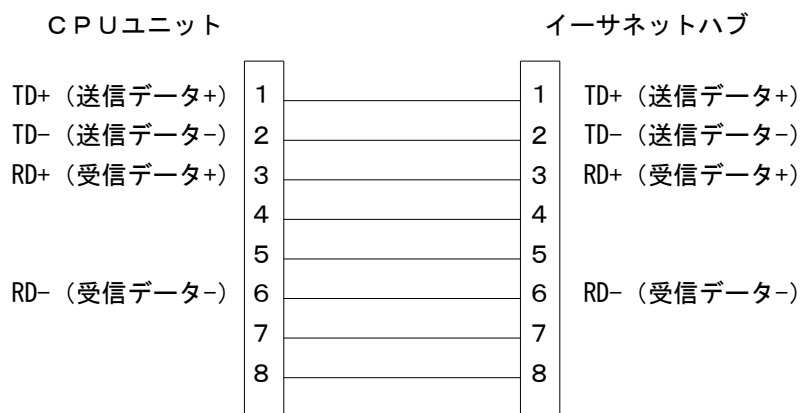
＜イーサネット使用時のシステム構成＞

イーサネットハブとＰＩ－１３００のＣＮ１（モジュラーコネクタ）とを接続して下さい。

※イーサネットハブを使用せずＣＰＵユニットとＰＩ-１３００を直結する場合は
クロスケーブルを使用してください。

＜イーサネットユニット使用時のシステム構成＞

イーサネットユニットのモジュラーコネクタとイーサネットハブとを接続して下さい。
イーサネットハブとＰＩ－１３００のＣＮ１（モジュラーコネクタ）とを接続して下さい。

ＣＰＵユニット ＋ イーサネットユニット　イーサネットハブ　　　ＰＩ－１３００

※イーサネットハブを使用せずイーサネットユニットとＰＩ-１３００を直結する場合は
　クロスケーブルを使用してください。

＜エンハンスドカテゴリ５（ＴＩＡ／ＥＩＡ５６８－Ａ）ストレート結線図＞

４－３．ユニット設定

ここではユニットの設定方法を説明します。

■ＣＪ／ＣＳシリーズ

＜イーサネット、イーサネットユニット使用＞
通信条件はＣＸ－Ｐｒｏｇｒａｍｍｅｒで設定します。

①使用ユニット選択
「プロジェクト」～「Ｉ／Оテーブル・ユニット設定」で「ＰＬＣのＩ／Оテーブル」を表示します。
「ＣＰＵラック」～「空きスロット」～「通信」から使用するユニットを選択します。

②ユニットネットワーク設定
「プロジェクト」～「Ｉ／Оテーブル・ユニット設定」で「ＰＬＣのＩ／Оテーブル」を表示します。
使用するユニットを選択して「パラメータの編集」を表示します。
「パラメータの編集」で「設定」を選択して次のように設定します。

任意設定の有無	任意設定
一斉同報	すべて１
ＦＩＮＳ／ＵＤＰポート	ユーザ定義（任意のポート番号を設定）（※１）
ＦＩＮＳ／ＴＣＰポート	ユーザ定義（任意のポート番号を設定）（※１）
ＴＣＰ／ＩＰ　Ｋｅｅｐ－ａｌｉｖｅ	必要に応じて設定（※４）
ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定（※２）
サブネットマスク	ネットワークのサブネットマスクを設定（※３）
ＩＰアドレス変換	併用方式
伝送速度	自動検出
相手ＩＰアドレス動的変換	相手ＩＰアドレスを動的に変更しない
ＦＴＰ	必要に応じて設定（※４）
ＩＰアドレステーブル	必要に応じて設定（※４）
ＩＰルータテーブル	必要に応じて設定（※４）

※１　他のポート番号と重複しないように設定して下さい。
※２　ＩＰアドレスは、４－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定する
　　　ＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。
※３　サブネットマスクパターンは、４－４項　ＰＩ　ＡｓｓｉｓｔａｎｃｅによるＰＩ設定にて
　　　設定するサブネットマスクと同じ値にして下さい。
※４　ＰＩ－１３００では使用しません。使用環境の必要に応じて設定してください。

③ノードアドレス設定
ユニットのロータリスイッチでノードアドレスを設定します。
４－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅによる接続先設定にて設定するＰＬＣのＦＩＮＳノードアドレスと同じ値に設定して下さい。他のユニットのノードアドレスと重複しないように設定して下さい。
設定範囲は０１～７Ｅ（１６進数）です。

※設定後はＰＬＣをリセット、または電源を入れ直して下さい。

４－４．ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定

ここではＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅの設定方法を説明します。

■ＣＪ／ＣＳシリーズ

＜イーサネット、イーサネットユニット使用＞

①「プロジェクト」～「ＰＩ設定」で次のように設定します。

イーサネット設定

項目	設定値
ＩＰアドレス	ＰＩ－１３００に割り当てるＩＰアドレスを設定
デフォルトゲートウェイ	任意の値を設定
ＩＰマスク	ネットワークのＩＰマスクを設定

②「プロジェクト」～「ＰＬＣ間通信設定」で次のように設定します。
なお、ＰＩ－１３００と共有するデバイスはデータレジスタのみです。
デバイス値は数値だけを入力して下さい。（デバイス記号Ｄは入力不要です）

使用するＰＬＣ

項目	設定値
接続ＰＬＣ	オムロン（ＣＪ，ＣＳシリーズ）

ＰＬＣとの接続

項目	設定値
接続方法	イーサネット（ＰＩ－１３００）

デバイスアドレス

項目	設定値
指令領域先頭ＤＭ　ＥＭ（ＰＬＣ→ＰＩ）	任意のデバイス値（※１）
応答領域先頭ＤＭ　ＥＭ（ＰＬＣ→ＰＩ）	任意のデバイス値（※１）
ポイントデータ領域先頭ＤＭ　ＥＭ（ＰＩ→ＰＬＣ）	任意のデバイス値（※２）

接続先設定（※３）

項目	設定値
接続先ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定
ポート番号	ＰＬＣに割り当てるポート番号を設定
ＰＩのＦＩＮＳノードアドレス	任意の値を設定（ＰＬＣとの重複不可）
ＰＬＣのＦＩＮＳノードアドレス	任意の値を設定（ＰＩとの重複不可）

※１　設定したデバイス値から占有するデバイス数は２００となります。
他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。

※２　設定したデバイス値から占有するデバイス数は７６８となります。
他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。

※３　「接続先設定」の設定値は、ＰＬＣのユニット設定で設定した値と
同じ値を設定して下さい。
また他の機器に設定した値と重複しないように設定して下さい。

③「オンライン」～「ＰＩ書き込み」で設定の書き込みを実行します。
設定後はＰＩ－１３００の電源を入れ直して下さい。

４－５．ＰＩ－１３００　スイッチ設定

ここではＰＩ－１３００のスイッチ（ＳＷ１）設定方法を説明します。

①通信機能の設定
ＳＷ1のｂｉｔ１～３は全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。
ＳＷ1のｂｉｔ４はＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度設定です。
使用するＡＥ－ＬＩＮＫスレーブ機器に応じて、通信速度を設定して下さい。
ＳＷ1のｂｉｔ５～８は予備のスイッチなので全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。

ｂｉｔ１～８機能

スイッチ番号	機能	ＯＦＦ	ＯＮ
ｂｉｔ１	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ２	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ３	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ４	ＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度	３８．４ｋｂｐｓ	３０７．２ｋｂｐｓ
ｂｉｔ５	予備	－	－
ｂｉｔ６	予備	－	－
ｂｉｔ７	予備	－	－
ｂｉｔ８	予備	－	－

※スイッチの設定は、コントローラの電源を切った状態で行って下さい。
　スイッチの設定は、絶縁されたマイナスドライバ等を使用して下さい。

４－６．接続確認

設定が完了した後は、接続状態の確認を行って下さい。

接続状態の確認はＣＸ－Ｐｒｏｇｒａｍｍｅｒで行います。
「プロジェクト」～「ＰＬＣメモリ」の「Ｄ」を表示させます。
「先頭チャンネル」にＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定で応答領域先頭に設定したデバイスアドレスを入力してモニターモードにします。
応答領域先頭デバイスのｂｉｔ８～ｂｉｔ１５（Ｆ）にはＰＩ－１３００のＷＤＴ（ウォッチドッグタイマ）が反映されています。
ｂｉｔ８～１５が１秒ごとに１つずつ変化していれば接続状態は正常です。
ｂｉｔ８～１５のデータが変化しない場合には正常な通信が行われていない可能性があるので、
もう一度各設定内容を確認して下さい。

５．パナソニック電工（株）製ＰＬＣとの接続

５－１．接続前の確認

ここではＰＩ－１３００とパナソニック電工㈱製ＰＬＣを接続するために必要な項目を確認します。
ご使用のＰＬＣのＣＰＵユニット型式と、イーサネットユニットの型式を　ご確認下さい。

シリーズ名	ＣＰＵユニット	接続方法
ＦＰ２／ ＦＰ２ＳＨ	ＡＦＰ２２１１	イーサネットユニット経由 ＡＦＰ２７９０ ＡＦＰ２７９０１
	ＡＦＰ２２１２	
	ＡＦＰ２２１４	
	ＡＦＰ２２３１	
	ＡＦＰ２２３５	
	ＡＦＰ２２５５	

５－２．システム構成、結線

ここではＰＩ－１３００とパナソニック電工㈱製ＰＬＣを接続するためのシステム構成を説明します。

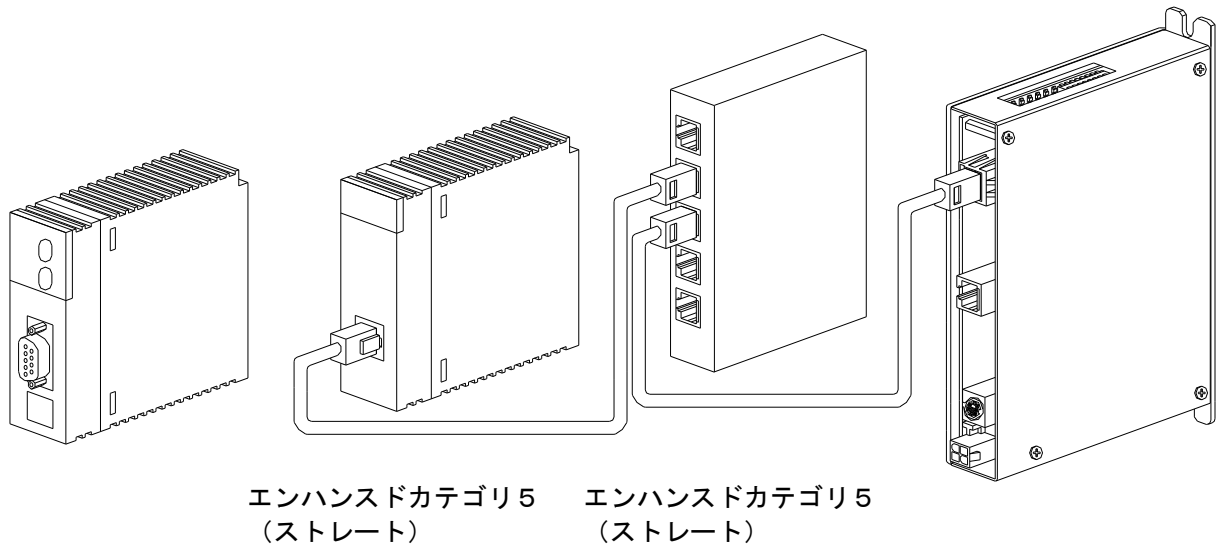
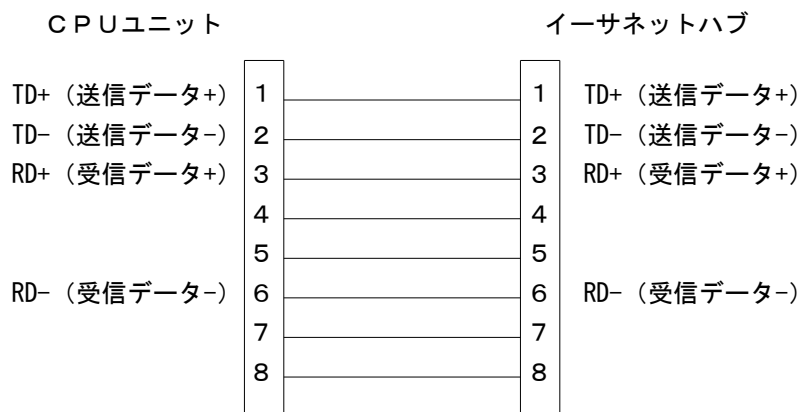
■ＦＰ２／ＦＰ２ＳＨシリーズ

＜イーサネットユニット使用時のシステム構成＞

イーサネットユニットのモジュラーコネクタとイーサネットハブとを接続して下さい。
イーサネットハブとＰＩ－１３００のＣＮ１（モジュラーコネクタ）とを接続して下さい。

ＣＰＵユニット ＋ イーサネットユニット　イーサネットハブ　ＰＩ－１３００

※イーサネットハブを使用せずイーサネットユニットとＰＩ-１３００を直結する場合は
クロスケーブルを使用してください。

＜エンハンスドカテゴリ５（ＴＩＡ／ＥＩＡ５６８－Ａ）ストレート結線図＞

５－３．ユニット設定

ここではユニットの設定方法を説明します。

■ＦＰ２／ＦＰ２ＳＨシリーズ

＜イーサネットユニット使用＞
次の内容を設定する必要があります。

項目	設定値
自ノードＩＰアドレス	他と重複しない様に設定
自ノードＭＥＷＴＯＣＯＬ局番	他と重複しない様に１～６４の範囲で設定
自ノードポート番号	０以外の値を設定（８０００以上推奨）
相手ノードＩＰアドレス	他と重複しない様に設定
相手ノードＭＥＷＴＯＣＯＬ局番	他と重複しない様に１～６４の範囲で設定
相手ノードポート番号	０以外の値を設定（８０００以上推奨）
通信プロトコル	ＵＤＰ／ＩＰ使用

■ＦＰＷＩＮ　ＰＲＯでの設定例

①ラダープログラム作成の準備
「プロジェクト」～「ＰＯＵ」で「ＰＯＵ新規作成」を表示します。
「ＰＯＵ新規作成」で次のように選択します。

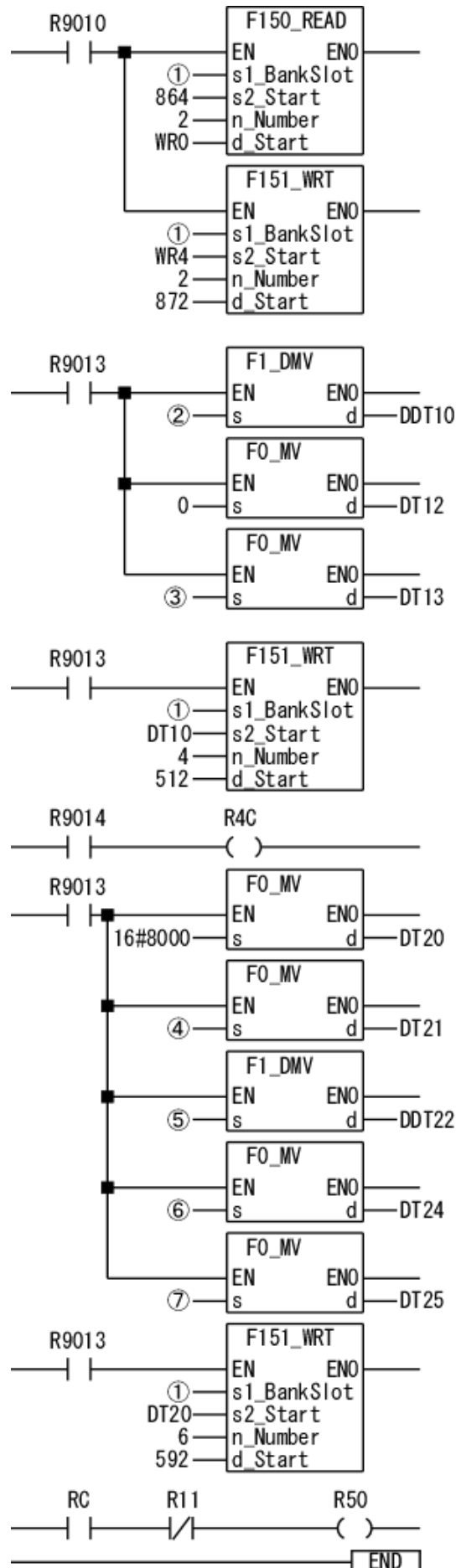
ステップ名	任意設定
ＰＯＵタイプ	プログラム（ＰＲＧ）
言語（Ｌ）	ラダーダイアグラム（ＬＤ）
タスク	Ｐｒｏｇｒａｍｓ

②通信設定ラダープログラム作成
新規作成したＰＯＵを開き、通信設定ラダープログラムを作成します。
通信設定ラダープログラムでは次の内容を設定する必要があります。

①	イーサネットユニット装着スロット
②	自ノードＩＰアドレス（ＤＴ１０～ＤＴ１１）（※１）
③	自ノードＭＥＷＴＯＣＯＬ局番（ＤＴ１３）（※２）
④	自ノードポート番号（ＤＴ２１）（※３）
⑤	相手ノードＩＰアドレス（ＤＴ２２～ＤＴ２３）（※４）
⑥	相手ノードポート番号（ＤＴ２４）
⑦	相手ノードＭＥＷＴＯＣＯＬ局番（ＤＴ２５）（※５）

※１　自ノードＩＰアドレスは、５－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅの接続先設定にて設定する接続先ＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。
※２　自ノードＭＥＷＴＯＣＯＬ局番は、５－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅの接続先設定にて設定する局番号と同じ値に設定して下さい。
※３　自ノードポート番号は、５－４項　ＰＩ　ＡｓｓｉｓｔａｎｃｅのＰＩ設定にて設定するポート番号と同じ値にして下さい。
※４　相手ノードＩＰアドレスは、５－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅのイーサネット設定にて設定するＩＰアドレスと同じ値に設定して下さい。ＩＰアドレスは他と重複しない様に設定して下さい。
※５　相手ノードＭＥＷＴＯＣＯＬ局番は、５－４項　ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅの接続先設定にて設定するＰＩ局番号と同じ値に設定して下さい。

①～⑦の内容を設定して次のラダープログラムを作成します。
ラダープログラム作成後、「オンライン」～「オンラインモード」でオンラインモードにします。
「オンライン」～「プログラムコードとＰＬＣ構成のダウンロード」でＰＬＣに作成した
ラダープログラムを書き込みます。

※設定後はＰＬＣをリセット、または電源を入れ直して下さい。

①～⑦は上記表を参照して
入力する値を設定

ＵＤＰ／ＩＰ使用時
ＤＴ２０を８０００Ｈに設定

５－４．ＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定

ここではＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅの設定方法を説明します。

■ＦＰ２／ＦＰ２ＳＨシリーズ

<イーサネットユニット使用>

①「プロジェクト」～「ＰＩ設定」で次のように設定します。

イーサネット設定

項目	設定値
ＩＰアドレス	ＰＩ－１３００に割り当てるＩＰアドレスを設定
デフォルトゲートウェイ	任意の値を設定
ＩＰマスク	ネットワークのＩＰマスクを設定

②「プロジェクト」～「ＰＬＣ間通信設定」で次のように設定します。
なお、ＰＩ－１３００と共有するデバイスはデータレジスタのみです。
デバイス値は数値だけを入力して下さい。（デバイス記号Ｄは入力不要です）

使用するＰＬＣ

項目	設定値
接続ＰＬＣ	Ｐａｎａｓｏｎｉｃ（ＦＰシリーズ）

ＰＬＣとの接続

項目	設定値
接続方法	イーサネット（ＰＩ－１３００）

デバイスアドレス（※３）

項目	設定値
指令領域先頭（ＰＬＣ→ＰＩ）	任意のデバイス値（※１）
応答領域先頭（ＰＩ→ＰＬＣ）	任意のデバイス値（※１）
ポイントデータ領域先頭（ＰＬＣ→ＰＩ）	任意のデバイス値（※２）

接続先設定（※４）

項目	設定値
接続先ＩＰアドレス	ＰＬＣに割り当てるＩＰアドレスを設定
ポート番号	ＰＬＣに割り当てるポート番号を設定
局番号	任意の値を設定（ＰＩ局番号との重複不可）
ＰＩ局番号	任意の値を設定（局番号との重複不可）

※１　設定したデバイス値から占有するデバイス数は２００となります。
他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。
※２　設定したデバイス値から占有するデバイス数は７６８となります。
他のデバイスと重複しないように設定して下さい。
ＰＩ－１３００の取扱説明書をご参照ください。
※３　デバイスアドレスに設定する値は、ユーザ用エリアのデータレジスタを
設定して下さい。
※４　「接続先設定」の設定値は、ＰＬＣのユニット設定で設定した値と
同じ値を設定して下さい。
また他の機器に設定した値と重複しないように設定して下さい。

③「オンライン」～「ＰＩ書き込み」で設定の書き込みを実行します。
設定後はＰＩ－１３００の電源を入れ直して下さい。

５－５．ＰＩ－１３００　スイッチ設定

ここではＰＩ－１３００のスイッチ（ＳＷ１）設定方法を説明します。

①通信機能の設定
ＳＷ１のｂｉｔ１～３は全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。
ＳＷ１のｂｉｔ４はＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度設定です。
使用するＡＥ－ＬＩＮＫスレーブ機器に応じて、通信速度を設定して下さい。
ＳＷ１のｂｉｔ５～８は予備のスイッチなので全て“ＯＦＦ”に設定して下さい。

ｂｉｔ１～８機能

スイッチ番号	機能	ＯＦＦ	ＯＮ
ｂｉｔ１	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ２	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ３	バンク切り換え	－	－
ｂｉｔ４	ＡＥ－ＬＩＮＫ通信速度	３８．４ｋｂｐｓ	３０７．２ｋｂｐｓ
ｂｉｔ５	予備	－	－
ｂｉｔ６	予備	－	－
ｂｉｔ７	予備	－	－
ｂｉｔ８	予備	－	－

※スイッチの設定は、コントローラの電源を切った状態で行って下さい。
スイッチの設定は、絶縁されたマイナスドライバ等を使用して下さい。

５－６．接続確認

設定が完了した後は、接続状態の確認を行って下さい。

接続状態の確認をＦＰＷＩＮ　Ｐｒｏで行う場合は、次のように行います。
「モニタ」～「ユーザモニタ」で「ユーザモニタ」を表示させます。
「変数の選択」にＰＩ　Ａｓｓｉｓｔａｎｃｅ設定で応答領域先頭に設定したデバイスアドレスを入力します。
応答領域先頭デバイスのｂｉｔ８～ｂｉｔ１５（Ｆ）にはＰＩ－１３００のＷＤＴ（ウォッチドッグタイマ）が反映されています。
ユーザモニタを２進で表示させたとき、ｂｉｔ８～１５が１秒ごとに１つずつ変化していれば接続状態は正常です。
ｂｉｔ８～１５のデータが変化しない場合には正常な通信が行われていない可能性があるので、もう一度各設定内容を確認して下さい。

●本資料は、製品をご購入していただくための参考資料となっております。本資料中に記載の技術情報について旭エンジニアリングが所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。

●本資料に記載した情報に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、旭エンジニアリングは責任を負いません。

●本資料に記載した情報は本資料発行時点のものであり、旭エンジニアリングは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。

●本資料に記載した情報は正確を期すため、慎重に制作したものですが、万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、旭エンジニアリングはその責任を負いません。

●本資料に記載された製品は一般的な産業機器の組込用として設計・製造されています。医療用機器・原子力関係・その他直接人命に関わる機器等には使用しないで下さい。

●本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点がございましたら旭エンジニアリング、販売店までご照会下さい。

■製造：　株式会社 旭エンジニアリング

小平事業所　〒187-0043　東京都小平市学園東町 3-3-22
Tel：042-342-4422（代)、042-342-4421（技術部・営業部）
Fax：042-342-4423
ホームページ：　http://www.asahi-e.com
Mail：　info@asahi-engineering.co.jp

２０１０年　６月１５日　改訂